

地域連携看護学実践研究センター ニュースレター



2025年度の活動

2025年度 JANP センター活動報告にあたって

東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究(JANP)センター長 高橋 衣



JANPセンターは2018年度設立以来8年目を迎えております。2025年度の活動は、地域に根差した健康支援と、情報の拠点として多角的な活動を展開してまいりました。【プレコンセプションケア(PCC)】の普及では、啓発カードの配布や公開講座の開催、地域イベントへの参加を通じ、住民の皆様と直接対話する機会を大切にしました。【みんなの学び場部門】では、増加する医療的ケア児とそのご家族を支えるべく「にじいろスマイルの会」を継続開催いたしました。専門職向けの技術演習を含む学習会を通じ、実践的な支援の質の向上を図りました。【みんなの保健室部門】では、学生と共に地域へ出向き、健康相談やヘルスチェック、専門的な分野も加えつつ、多世代の皆様健康サポートを継続いたしました。【みんなの活動部門】では、「地域住民の看護学教育への参加」についてボランティアとして協力の呼びかけを開始しました。また、【ニーズリソースマッチンググループ】では、西部医療センターの小児科と連携して、ニーズ把握のための地域調査を開始し、レスパイト入院の整備など、より具体的な支援体制の構築に繋げていく予定です。【広報グループ】では、JANPの活動を皆様にご覧いただきやすく随時配信しております。各部門、グループの報をご一読ください。

JANPセンターは、各部門の成果と課題を糧に、2026年度も実証的な視点を持ちながら、地域の皆様の健やかな生活に寄与する活動を推進してまいります。

プレコンセプションケア

リーダー 松永 佳子

2025年度、JANPセンターではプレコンセプションケアの普及を目的に、啓発カードの配布やホームページを活用した情報発信に取り組みました。10月20日には公開講座を開催し、調布まちかつフェスタにも参加するなど、地域の方々との直接対話する機会を持ちました。また、カードおよびホームページの有用性を検証するための研究にも着手し、啓発手法の評価と改善に向けた基盤づくりを進めました。一方で、当初計画していた相談事業の展開には至らず、今後の課題として残りました。今年度の成果と課題を踏まえ、引き続き実証的な視点を大切にしながら、実践につながるプレコンセプションケアの普及を目指していきます。



みんなの活動

部門長 松永 佳子

2025年度は、看護学生の学内技術演習に地域の皆さまのお力をお借りするための仕組みづくりに取り組みました。

2024年度末に看護学科の教員へニーズ調査を実施したところ、バイタルサイン測定や日常生活援助の演習において、実際に地域住民の方に「患者役」としてご協力いただくことが、学生の実践力向上に大変有効であるとの方向性が示されました。

この結果を受け、地域ボランティアの皆さまに安心してご参加いただけるよう、募集・登録・案内の仕組みを整備しました。謝礼や個人情報保護、保険対応など、参加に必要な体制も整えています。

2026年度はよいよ実際の演習でご協力いただく予定です。地域と大学が共に育む看護教育の実現に向け、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

私たちの願い

看護が地域に根ざし、地域の人々の健康と暮らしを支える力を、地域の皆さまと一緒に育むこと



地域住民のみなさまと一緒につくる看護学教育

地域住民のみなさまに看護学教育にご参加いただくために



東京慈恵会医科大学 JANPセンター

みんなの保健室

部門長 清水由美子

みんなの保健室は、身近な場所で気軽に健康相談できる場所として、地域の施設をお借りして実施しています。保健師や看護師経験のある教員や看護学科の学生が、簡単なヘルスチェック(血圧や体組成測定、握力測定など)と健康に関する何でも相談を行っています。健康診断結果の確認、病院受診前の疑問、定期的な健康確認、といった利用があります。

2025年度は、多摩川住宅大集会所で開かれている「い〜サロン」におじゃまして2回、国領駅前の市民プラザあくろすで1回開催した他、調布市まち活フェスタにも参加しました。9月に開催した看護学生による総合実習「みんなの保健室」には44人が来室されました。2026年度も、多摩川住宅内や市民プラザあくろすなどで複数回開催予定です。どなたでもご利用できますので、ぜひお気軽にいらしてください。



看護学生による総合実習「みんなの保健室」

ニーズリソースマッチンググループ

部門長 大橋 十也

日本では医療的ケア児は増加しており、厚生労働省の推計では2005年に約1万人であったものが2021年には約2万人へと約2倍に増加しています。医療技術の進歩により重症児の救命率が向上したことが背景とされています。このような状況の中、医療的ケア児を養育する家族の身体的・精神的負担を軽減するため、レスパイト入院の整備が求められています。そこで東京慈恵会医科大学西部医療センター小児科ではレスパイト入院の導入を計画しており、その基礎資料とするため、調布市・狛江市・世田谷区に在住する医療的ケア児家庭の実情やニーズを把握する調査を2026年2月より開始しました。本調査の結果については来年度に解析を行う予定です。

みんなの学び場

部門長 務基 理恵子

学び場部門では、地域住民および保健医療福祉専門職を対象に、健康や医療に関する情報発信と学びの場の提供を目的として活動しています。本部門では2021年度より、在宅で医療的ケアを必要とする子どもとその家族への理解を深めることを目的に、「にじいろスマイルの会(小児在宅ケア)」を立ち上げ、継続的に取り組んでいます。

2025年度は、医療的ケア児を取り巻く環境や支援について共に考える学習会として、「にじいろスマイルの会」を全2回開催しました。第1回(2025年8月)は、作業療法士と看護師を講師に迎え、「医療的ケア児とその家族の生活」および「遊びの実際」をテーマに講演を行いました。当日は台風の接近により急遽オンライン開催へ変更となりましたが、現場の実践に基づく貴重な知見を共有いただきました。第2回(2026年3月)は、医師と理学療法士を講師に迎え、「気管切開・吸引」ならびに「呼吸リハビリテーション・ポジショニング」をテーマに、技術演習を取り入れた学習会を実施し、実践的な手技について理解を深めました。

今後も、地域住民および保健医療福祉専門職の学習ニーズに応じた活動を継続的に推進していく予定です。

東京慈恵会医科大学 JANPセンター

研究協力のお願い

医療的ケア児のレスパイトと家族の生活に関する調査

対象者・方法

対象 0歳～18歳の医療的ケア児のご家族

方法 Google フォームによるアンケート調査

調査内容
お申し込み後、お申し込み用紙(アンケート)を郵送し、ご自身の活動に関することについての質問です

調査時期
お申し込み後、お申し込み用紙が到着次第で調査が可能です。

調査方法
Google フォームより回答をお願いいたします。

結果への活用
お申し込み後、お申し込み用紙が到着次第、調査結果についてアンケート結果を共有いたします。調査結果は匿名で集計して報告させていただきます。

お問い合わせ

東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター：JANPセンター
☎ 03-34801151 内線2781

受付時間：平日 9:00～17:00 研究責任者：大橋 十也



学習会の風景

